

四條畷市まちづくり長期計画（教育施設を含む）
策定に向けたまちづくり意見交換会〔第6回〕

- 日 時：平成26年10月9日(木)19:00～
- 場 所：サンアリーナ25 多目的室
- 出席者：48名

<質疑応答>

- ・南小の保護者です。この資料に記載されている内容は決定事項ですか？意見を言えば反映されるのか？その場合、どのような方法でお伝えすればよいのか？次に2年前の説明では米崎踏切を渡る通学路で計画がボツになったと記憶しているが、今回の計画でもJRを横断する計画となっているが、具体的な通学路を教えてください。
- ⇒まず今回の開催主旨は今後の少子高齢化や公共施設の老朽化への対策、特に教育施設の集約化はまちづくりとは切り離すことはできない問題であり、今後の検討によって最も費用の掛からない方法で施設の集約を図っていくものであり、教育施設の再編とまちづくりをセットで立案していきたいと考えております。今回はあくまで案であり、このような意見交換会の意見を踏まえながら内容を詰めていきたいと考えております。
- ⇒教育環境整備の考え方については、一定これまで協議してきた内容ではあるが、特色ある学校づくりや校区再編等については確定事項ではなく、今後も皆様の意見をいただきながら再検討していきたいと考えております。
- ⇒米崎踏切の横断について、中野新町・塚米・楠公の3地区を南北に暫定的に区分し、米崎踏切を渡ることがないように、北側については国道163号の側道を利用する案、南側については現在通学路として利用している後戸川踏切と場合によっては楠公の踏切を活用していくよう検討しています。また、バス通りへの安全性確保にも努めていきたいと考えております。畷中への通学距離については、子供たちの距離に対する疲労感なども考慮し、今後も検討を重ねていきたいと考えております。
- ⇒立案に関するスケジュールについては今回の意見交換会で一定の案を示し、いただきました意見を持ち帰りさらに検討を重ねてまいります。現在、教育環境整備計画を策定中であり、今回の意見等も反映させながら年末から年始に予定している学校適正配置審議会で子どもに関係する団体や地区の代表者、学識経験者等にも参画していただきながら審議を行い、今年度中には決定していきたいと考えています。
- ・東小校区の保護者です。新たに新小学校を作る必要があるのか？近くには畷小学校もあるのに、今ある施設を利活用することは考えられないのか？
- ⇒5年後の人口減少等を考慮すると学校数を減らさなければならないと考えました。その中で国道163号とJRで区分される4区域のいずれにおいても小学校が配置でき

るよう計画をいたしました。現在の南中学校の形や大きさなどから適当であると考え、そこに特色ある公立小学校をリードするような学校を作っていきたいと考えています。また、4区分する区域の北東のエリアから小学校を減らすとした場合、小中連携を考慮すると忍ヶ丘小学校を残し、曙小学校を廃校する計画といたしました。

- ・中野新町在住の者です。中学生は特に多感な時期でもあるにも係わらず、学校を3つから2つにする計画について、少数できめ細やかな教育と考えると学校を減らし生徒数を増やす必要があるのか？また曙中までの通学距離は遠く不安を感じます。また新たな学校の建設費用など財政面でも厳しいと考えられるがいかがでしょうか。

⇒現状3、4クラスから計画では5、6クラス程度と増えるが、これに伴い教員も増えます。よって、教科についての専門性も担保されるとともに、多くの子どもたちが楽しみにしているクラブ活動の幅も広がると考えられます。中学校を3つから2つとなると不安もあると思われませんが、教員数をより増やすことができるよう、国の制度を活用しながら、子供も教員もケアしていきたいと考えています。

⇒財源については、これら計画を実施していくには大変なことではありますが、例えば学校再編に伴う跡地や公共施設の集約化による空地を売却する、また民間に貸すなどにより財源を生み出すこと、PFI手法による民間の資金を活用することで財源的に節約できるような検討も含めて取り組んでいきたいと考えています。

- ・これまでの計画では地域を2区分する考え方であったが、今回4区分にすることで特色あるまちづくりを行うためなのか、それともただ学校再編だけなのか教えていただきたい。学級数を増やすことも理解はできるがこれからは少人数学級を目指す時期であり、これにより教員への負担を軽減させることになるのではないかと考えます。次に公共用地の売却について、市街地エリアには公園が少ないことから、住みやすいまちと考えるなら公園や緑の整備が必要であると考えられる。せっかくの公共用地を売却してしまうことについて疑問を感じます。

⇒4つに区分について、学校はまちづくりの中心的存在でもあり、地形地物を考慮した上で4つに区分し、地域コミュニティも重要であることから学校を中心とした4つの特色あるまちづくりを作っていきたいと考えています。また、公共用地の売却については、すべてを売却する考えはなく、公園も重要な施設であることから財源も考慮したうえで検討していきたいと考えています。

⇒学校規模と少人数学級の考え方について説明いたします。学級数を増やすということは教員のためだけではなく、一番は子供のためであると考えています。やはり6年間1クラスの学校生活というのはクラス替えの楽しみもないし、クラス替えによる人間関係の配慮もできないなど、たくさんの子供たちがふれあい、切磋琢磨できる環境を作ってあげたいと考えています。次に少人数学級についてはたくさんの利点もあるが、

教員数の配置については児童生徒数に基づく学級数により国や府で定められています。現行では1, 2年では一クラス35人、3年生以上では一クラス40人であり、これを独自の基準にして増員となる教員は国からの配置ではなく、市で講師を採用することとなります。現在、市独自で実施している他市の事例では、講師の確保が難しいと聞いています。また市で独自に採用した講師であれば、府の研修に参加することができないなど、教育の質の向上と担保が課題であり、見極めているところであります。

- ・ 前回の説明会にも出席した者です。前回の説明を踏まえ、通学経路と想定される道をクラブ帰りの夕方時刻に合わせて子どもと中野新町から畷中学校まで歩きました。荷物を持たずに37分掛かり、さらに荷物を持った場合ではもっと時間が掛かると考えられます。歩いて、どのような箇所が危険であるか説明すると、まず国道163号の高架下について電灯は付いているが車と自転車の往来が激しく、端を歩かないと危険な状態であった。次にJRを渡る高架下のトンネルでは電灯もなく真っ暗でした。そのトンネルを抜けると住宅街であり、人通りも少なく物音もないほど静かな状態であるが、車とバイクの交通量は比較的多く、端を歩いていたにも関わらず車に引かれそうになった。車も暗い状況であり、交通上危険な場所であると言えます。その後は畷中に向かって坂を上っていくのですが、歩道も右側に狭くある程度であり、しかも側溝で歩きづらく、電灯もなかった。歩道は二人並んで歩くには困難な状態であり、歩道も崩れかかっている箇所もあることから子供たちは恐らく車道に出て歩くと想定されることから危険であると言えます。暗さについては、前回の説明の中でLEDに付け替えると説明を受けたが、LEDを設置しても脇道には民家もない暗い場所もあり危険なところが多くあった。このような通学路を毎日通わせるのは母親としては非常に心配であり、何かあってからでは遅いので、子供の安全を考えるとやはり畷中ではなく徒歩10分の西中を通わせていただきたいと思います。他市では中学校を選択することもできると聞いています。このような内容も含めて検討いただきたい。LEDを設置する場合、どこに何ヶ所設置するのか、また設置するにあたって地元の説明などは終わっているのか、お聞かせください。
⇒いただきましたご意見はこれまでの意見交換会でも伺っております。危険箇所についてはPTA等を通じて教育委員会にも上がっております。改めて再調査を行い、検討していきたいと考えております。
⇒LED整備については、今年度から実施を始めており、現在実施中であり、五ヵ年計画で進めている。通学路についても順次取組みを行い、また教育委員会とも連携していく方針です。
⇒中野新町や中野1丁目、2丁目も新小学校に近い。校区の選択制についてご意見を頂きましたので引き続き検討していきたいと考えています。
- ・ LED整備を五ヵ年計画で進めるのであれば教育施設の再編に間に合わないと考えられ

る。今ある防犯灯の蛍光灯をLEDに替えるだけなのか？それとも新設していく方針なのか？

⇒計画としては、今ある蛍光灯をLEDに付け替える計画であるが、通学路については教育委員会と連携しながら新たに整備するかについて検討していきたいと考えています。道路灯についてはすべてLEDに整備済みです。

- ・教育施設を集約し、減らすとなると不便になる。コンパクトシティの考え方ではなく、施設が分散化している。それぞれの地域単位に便利施設を作るのか。次に通学路についてはやはり危険な場所が多い。ただLEDにしたから安全とは言い難い。不便に対する改善提案が示されていない。

⇒あくまでLED化は安全対策の一つであるということをご認識していただきたいと思っています。

⇒四條畷市の西部地域は2km四方とコンパクトな市街地である。今ある施設を維持管理するにはコストがかかりすぎることで、施設がバラバラであると施設までのインフラ等に伴う財政負担が大きいことから、施設を集約し利便性を高めることを目標としております。コンパクトなまちをさらにコンパクトなまちに再編したいと考えています。

- ・PTA協議会や学校を通じてチラシも配布していただき意見交換会の周知もしていただきましたが、やはりマイクではなく肉声で通じ合える意見交換会を是非お願いしたい。本日の意見交換会でも主に教育環境に関する意見として、校区設定や通学路など様々な意見を保護者の方からいただいている。このようにやるべき議論を行い、保護者が教育環境を粘り強く作っていくことが重要であると考えられます。学校は単に学ぶ場だけではなく、コミュニティを育む場でもあることから、表題にある「まちづくり長期計画（教育施設を含む）」というタイトルは如何なものかと思えます。ハード整備が優先されるのではなく、まちづくりは人づくりであり、住民の意識と活動を活かすことで小さな施設も大きく使うことができますし、小さな施設で大きな文化を生み出すこともできると考えます。このことからコンセプトを人として着目した検討を我々市民も含めて取り組む必要があると考えられます。PTA協議会としては畷は1つであり、田原小学校、田原中学校も含めたまちづくり長期計画をしていく必要があります。

⇒肉声で通じ合える意見交換会は大事なことであります。これまでも関係する団体に対して個別の説明を行ってきたが、引き続き個別での意見交換も行っていきたいと考えております。また、例えば畷出前講座も今年度開設し、10人以上で場に出向き様々な意見交換を行うことも可能です。学校はコミュニティの場でもあり、防災面でも重要な要素であります。これまでいただきました意見を踏まえ、今後も十分に検討していきたいと考えております。

⇒魅力ある学校づくりを行っていくにはハード整備に限らずソフト整備もしっかりと計

画に位置付け取り組んでいきたいと考えております。子供たちには生きる力を小中学校で養っていただき、社会に羽ばたいていけるよう、教育環境整備計画に盛り込み、さらにバージョンアップさせていきたいと考えております。

(以上)